



大釜で焼き上げ、1日寝かせた後に切るカステラ。周囲には甘い香りが漂う

# 日本遺産 Japan Heritage

## Vol. 2 「砂糖文化を広めた長崎街道 ~シュガーロード~」 カステラ(長崎市)

室町時代末期から江戸時代、海外から輸入された砂糖は、日本の人々の食生活に大きな影響を与えました。なかでも長崎から小倉を結ぶ長崎街道「シュガーロード」沿道では砂糖が入手しやすく、外国由来の菓子の製法を学べたこともあり、個性ある砂糖文化が根付きました。

全国的にも有名なカステラは、南蛮貿易によりポルトガルの宣教師から伝わったといわれており、日本では珍しかった砂糖や卵、小麦粉がふんだんに使用されていました。当時のカステラは硬かったため、水あめやざらめを加えるなど日本人の口に合うように改良を重ねた結果、現在の私たちになじみのあるしっとりとした柔らかいカステラが生み出されていきました。

長崎の菓子店に当たり前に並ぶカステラ。その歴史に、思いを馳せながら食べると、違った見え方や味わいが楽しめるかもしれません。各店の商品を食べ比べてみて、あなたのお気に入りのカステラを見つけてみませんか。



日本遺産とは、地域の歴史的  
魅力や特色を通じて我が国の  
文化・伝統を語るストーリーと  
して文化庁が認定するもの  
で、「砂糖文化を広めた長崎  
街道~シュガーロード~」は、  
令和2年に認定されました。



季節や湿度によって、卵と砂糖、小麦粉を混ぜる時間などが異なる。これぞ職人の技



カステラのほか、数々の銘菓が地域に根付いています

問合せ 長崎市商工振興課 ☎095-829-1150 長崎街道シュガーロード 検索